

各位

2023年2月22日



顕彰・研究助成対象者決定のお知らせ

2023年2月22日午前11時より、「古川医療福祉設備振興財団 第10回顕彰・第9回助成対象者」を決める選考委員会が開催され、下記の通り決定いたしました。

■顕彰対象者（団体・個人）

1. 医療法人恒仁会 新潟南病院 統括常勤顧問 和泉 徹 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 2012年に北里大学病院循環器内科学教授を退任後、臨床知見をもとに、循環器病に悩む高齢者のリハビリ活動に専念。独歩プロジェクト、DOPPO:Discharge Of elderly Patients from hosPital On the basis of their independent gaitを企画・推進されている。超高齢化社会において高齢者が医療・介護施設に入院・入所する機会は多く、入院・入所を契機に身体機能障害がかえって進行するHospital Associated Disability(HAD)が後を絶たない中、DOPPO プロジェクトはこれを解消しようとするユニークなりハビリ活動であり、かつわが国のような超高化齢社会が求める高齢者医療・介護ニーズに応える貴重な成果をあげている。少子・超高齢化社会が抱える医療・介護の諸問題を解決しようとする志向性が広く注目されており、和泉氏の活動は当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

2. 大阪大学大学院医学系研究科 次世代内視鏡治療学講座

特任教授 中島 清一 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 大阪大学第一外科、コーネル大学外科（米国）等を経て、2012年より大阪大学次世代内視鏡治療学共同研究部門特任教授（消化器外科学併任）として活動されている。腹腔鏡手術を専門とする外科医として活動する傍ら、医療機器の研究開発者として、企業と連携して様々なデバイスの共同開発を先駆的に進められた。さらに産学連携、国際支援において指導的立場でこの分野の発展に大いに貢献されており、その活動は当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

3. 有限会社親和 代表取締役 羽田 富美江 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 広島県福山市鞆の浦で地域福祉を实践され、小規模多機能居宅介護、デイサービス、放課後デイサービスなどを幅広く運営されている。当初ボランティアからスタートし

社協への参加、そして酢醸造古民家取り壊しに際し、歴史的価値を見出す中で介護施設への転換を計画。有限会社を立ち上げ、2004年にさくらホーム（認知症グループホーム、デイサービス）を開設された。その後、柔軟性の高い小規模多機能を地区ごとに地域福祉の核として位置づけ、地域共生社会の確立を目指している。わが国の超高齢化社会における介護サービスのモデルとなるような活動であり、当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

4. 東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム

研究部長 大淵 修一 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 わが国の介護予防・フレイル予防の基礎を築いた理学療法士として包括的高齢者運動トレーニング（CGT）を開発された。高齢者の生活機能向上や筋力向上トレーニングなどの第一人者として普及啓発活動にも努め、わが国のような超高齢化社会の諸問題を解決する上で重要な活動をされており、その活動は当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

5. インスタリム株式会社 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 3DプリンターとAI活用による義足製作で従来価格の約10分の1以下の低価格・短納期を実現。利用者の足をスキャンするだけで工場制作した製品を届け、経済的に義足購入が難しい方々に対して購入機会拡大化に寄与した。多くのユーザーから高い評価を得ており、2000名以上の方々が提供待ちとなっている。経済産業省による事業再構築補助金を受けるなど日本の高い技術力を活用した内外へのこれらの活動は開発途上国を含めた社会課題の解決実現に繋がることであり、当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

6. 医療法人あかね会 阿品土谷病院 様

顕彰分野 建築設計

顕彰内容 広島市内にある土屋総合病院の分院の形で回復期リハビリテーション専門病院として35年前に開設された。敷地の高低差利用した巧みな中庭を配置し、瀬戸内海に浮かぶ宮島が眺められるゆったりとした車いすで動き回れる病室である。当初はサンルーム付きであったが今は形を変えている。サンルーム付きの病室は戦前に建設され現在は取り壊された旧大阪赤十字病院の一部の病棟や1999年に竣工したベルリンのシュパンドウ病院などに見られるが、いかに療養環境を大事にした計画かがわかる。また当初は自然エネルギーを利用したパッシブソーラー的な考え方に基づく集熱換気蓄熱システム（現在は容量的に稼働停止）やコ・ジェネによる熱電併給システムなどの省エネを積極的に導入し、環境負荷の低減に努力されてきた。さらに老人保健施設を増築するなど、地域医療の延長活動から現在の地域包括ケアシステムにソフト面は

もとよりハード面でも円滑につなげることができている。これらの取り組みは昨今注目されている持続可能な病院の在り方のモデルともいえるものであり、これに先駆的に取り組まれてきた活動は当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

7. 加賀市医療センター 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 2016年に加賀市民病院と山中温泉医療センター(国立病院移管)を統合し新病院(300床)として開院された。市人口7万人の地域の中で唯一の急性期病院であるとともに分娩のできる施設として新公立病院改革ガイドラインに沿った地域医療構想を踏まえた役割を果たしている。地域包括ケアシステムの中核施設として地域支援サブセンターを併設し、また断らない救急として市及び周辺地域を支えている。さらに公立病院としては初めての全個室病室であり、かつ差額病室を持たない形態であるが職員が一体的に活動することにより2021年度には黒字を達成された。また、医師の教育面では基幹型臨床研修病院、総合診療専門研修基幹施設として実績を残されていることや全国3か所のデジタル田園健康特区に予定されていること等、これからの病院経営のモデルとなるような先進的な活動は当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

8. 千葉大学 大学院工学研究院 名誉教授 中山 茂樹 様

顕彰分野 建築設計

顕彰内容 千葉大学において故伊藤誠元教授、河口豊元助手(現当財団理事)らと共に病院建築計画分野で数多くの研究活動と研究論文を発表された。その功績は国内の病院建築計画を牽引したと言っても過言ではなく、特に病院建築計画を床面積という単位で把握した病院部門別面積論は、病院建築設計を行う設計者にとって欠くことのできない情報であり、病院建築設備の設計指針となった。これらの研究に加え、医療建築分野での多くの研究とそれに基づく活動から昨年までの4年間、(一社)日本医療福祉建築協会会長として全国の病院建築担当者の指導に携わられた。その活動は、当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

9. 社会医療法人 祐愛会 様

顕彰分野 社会活動

顕彰内容 中心的施設である織田病院は病床数111床と小規模ながら、常勤医師34名、看護師118名の配置で急性期医療を中心に医療を提供されている。一方、介護領域の老健ケアコートゆうあい(100人)、グループホーム2施設、地域包括支援センター等を「ゆうあいビレッジ」として提供し、自治体立病院を持たない鹿島市全域を医療圏として行政施策を代替する医療、介護、福祉サービスを展開されており、当法人の活動と市民への医療、介護の提供の姿勢は、当振興財団の顕彰者規定に沿うものである。

■研究助成対象者

1. 東北文化学園大学医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
講師 鈴木 博人 様
・長下肢装具を使用した歩行介助技術の“コツ”の定量的可視化—脳卒中片麻痺者を想定して
2. 東京都立大学大学院 都市環境科学研究科建築学域 博士後期課程 小林 誠 様
・遊休地の活用および既存建築のリノベーションによる生活困窮世帯の児童・生徒を対象としたサードプレイスの計画
3. 純真学園大学 保健医療学部 医療工学科 講師 石田 開 様
・ソフトウェア無線と機械学習技術の融合による新しい医療電磁環境評価システムの構築
4. 工学院大学 建築学部建築学科 助教 江 文菁 様
・産後ケア事業における医療福祉環境に関する研究
—台湾の産後ケアセンターをケーススタディとして—
5. 京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 准教授 中野 英樹 様
・手指運動制御機構の加齢変容を基盤としたフレイル早期検出法の開発
6. 北陸大学 医療保健学部 医療技術学科 助教 宮地 諒 様
・慢性足関節不安定症者の足関節運動制御に対するレッグプレス装置を用いた下肢協調運動トレーニングの確立
7. 東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 准教授 富安 亮輔 様
・アフターコロナにおける多世代交流と幼老複合施設に関する研究
8. 西九州大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
准教授 中村 雅俊 様
・高齢者の筋肉量・筋質を改善させるためのトレーニング方法の確立
エキセントリック収縮を用いたトレーニングの有用性の検討
9. 日本医科大学付属病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 主任 大橋 美穂 様
・舌骨上筋群に対する嚙下反射と同期した反復末梢磁気刺激の有効性の検討
10. 道ノ尾みやた整形外科 リハビリテーション科・理学療法士 科長 石井 瞬 様
・ICTを活用した慢性腰痛高齢患者の疼痛や運動機能改善に効果的な教育・運動動画プログラムの開発

11. 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 赤岩 眞悠 様
・運動感覚を改善する新たなリハビリテーションの開発
ー脳リズムに着目し経頭蓋交流電気刺激を用いた研究ー
12. 大阪大学医学部附属病院 臨床工学部 井上 瑠菜 様
・AR 技術を用いた経カテーテル的大動脈弁留置術デリバリーシステムのクリンブ
操作支援システムの構築と評価
13. メディメッセ桜十字 桜十字予防医療センター 作業療法士 宮原 龍矢 様
・AI モーションキャプチャーを活用した歩容画像解析からの歩行習慣獲得への取り組み
14. 大阪大学医学部附属病院 医療技術部 臨床工学技士 石川 慶 様
・心停止を伴う心臓手術中のイオン化マグネシウム値の
適正な補正值の検討と術後不整脈発生との関連性について

■ 顕彰・研究助成選考委員一覧

委員長	河口 豊	滋慶医療科学大学大学院 特任教授 (工学博士)
委員	大垣 昌之	社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院 リハ技術部 部長
委員	小松 正樹	アイテック(株) 特任顧問
委員	田中 一夫	(株)病院システム 代表取締役会長
委員	早川 澄	元 酒井医療(株) 代表取締役社長
委員	細入 誠一	(株)HEW 研究所 代表
委員	松田 暉	医療法人嘉健会 思温病院 特別顧問
委員	山崎 敏	トシ・ヤマサキまちづくり総合研究所 代表取締役
委員	山下 信一	(株)山下 代表取締役社長
委員	山本 行俊	(株)システム環境研究所 取締役相談役
委員	吉田 靖	滋慶医療科学大学 医療科学部 臨床工学科 教授

■ 本件に関するお問い合わせ先

一般財団法人 古川医療福祉設備振興財団 事務局
〒565-0853 大阪府吹田市春日 3-20-8 TEL: 06-6369-0130